やっとなくなりました　家族の時間づくり

5月のゴールデンウィークの平日１日を学校などを休みにして家族で過ごさせようとする「家族の時間づくり」が来年度からようやくなくなります。この「家族の時間づくり」は、この議会報告に書き、議会の一般質問でも取り上げました。

働き方の見直しや家族と過ごす時間づくりは大切なことですが、問題はそれを市が日を決めて市民に押しつけたことです。ゴールデンウィークの時期に、仕事が忙しく休みが取れない保護者とその子ども達は辛い思いをしていました。

学校を休みにするやり方は改める

そこで今後は手法を変えて、11月の第2土曜日から16日間を「亀山ワーク・ライフ・バランス推進週間」として市民、事業所、各種団体、地域、学校、行政などでそれぞれが取り組むというものです。党議員団が問題点を指摘し、学校を休みにして実施するというやり方はやめるよう求めてきたのがやっと実りました。

それにしても櫻井市長がなぜこんなにもこの事業に固執したのか理解に苦しみます。櫻井市長の意地だとすれば、市民を泣かせる「意地」は御免です。

こうきの日誌（2月1日～2月26日）

赤旗の配達、集金活動等は除く

1日　“新春のつどい”のお誘い
2日　後援会役員会
3日　訪問活動
4日　みえ教育ネットワーク「研究集会」
5日　“新春のつどい”の資料づくり
6日　議会全員協議会　会派代表者会議
8日　会派代表者会議
9日　党市委員会
10日　総務委員会協議会
11日　市後援会“新春のつどい”
12日　“新春のつどい”のまとめ
13日　党支部会議
14日　各種計画案の読み込み
15日　臨時市議会
16日　鈴鹿亀山地区広域連合議会（懇談会）
17日　総務委員会　総務委員会協議会
18日　議会報告づくり　訪問活動
19日　県党会議
20日　予算決算委員会協議会（来年度予算案）
　　全員協議会　会派代表者会議
21日　議会改革推進会議検討部会
　　市議団会議
22日　市議団ニュースづくり
23日　議案の読み込み、調べ
24日　本会議（開会）　議会報告づくり
25、26日　質疑、質問の通告準備　訪問活動



梅の花（梅厳寺で）

この議会報告についてのご意見、ご感想をお寄せください

この議会報告は毎月月初めに発行しています　　好きです　亀山　住みよい街に

2017年　3月　5日　発行　　№. 214

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員　服部　孝規
〒519－0156　　亀山市南野町6－19－1
ご意見、ご感想は　　電話、FAX　0595－82－3646（FAX番号が変わりました）
E-mail　kouki@za.ztv.ne.jp　　市議団ホームページ　「共産党　亀山」で検索を

亀山駅周辺整備事業

５年間だけでも４６億円の大型事業

計画内容は市民に知らされていない

「政府は必ず嘘をつく」－ジャーナリストの堤未果さんの著書名です。最近の安倍内閣の答弁は、まさにその通りで南スーダンのPKOの日報問題や共謀罪についての答弁など次々に嘘が出てきます。国民が報道に流されずに、疑ってかかることです。

さて、昨年12月議会で取り上げた亀山駅周辺整備ですが、来年度予算案を報道する新聞記事で大きく掲載され、市民の話題となっています。しかし、市は市民にこの事業を説明していません。そこで、市広報で知らせるよう担当室長に求めました。

また、平成29年度～33年度までの5年間で総事業費が46億円かかるということは明らかになりましたが、これですべての事業が完了するわけではありません。その後の工事期間や全体の総事業費とその財源も明らかにすべきです。

高架橋がなくなる　市民にとって便利な橋



駅前広場から西町、東町方面へ向かう車が通るのが左の写真の高架橋です。計画ではこの橋をなくすことになっています。駅を利用する多くの市民にとって便利なこの橋をなくすことを市民の知らないうちに進めていいはずがありません。自動車の動線をどうすれば便利なのか、市民の中での議論が必要です。

「年内に組合の設立を」と市長　あまりにも拙速だ

櫻井市長は就任時の新聞インタビューで「再開発組合の設立を年内に」と述べました。一般的に再開発事業の流れは、準備組合が設立された後、後戻りできないとされる都市計画決定がされ、その後再開発組合の設立となります。櫻井市長は、この組合設立までを年内にやろうと言ったわけです。ところが都市計画決定には、再開発ビルに入る公共施設が決まっていなければなりません。あまりにも拙速な進め方です。

戦略プロジェクトの半分が公共事業費

3月議会では、平成29年度から始まる第2次総合計画案（9年間）が提案されました。さらに前期5年間の基本計画案と、事業内容を掲載した第1次実施計画案（平成29～31年度）も示されました。この第1次実施計画案には、5つの戦略プロジェクトがあります。

戦略プロジェクトとは、「前期基本計画の推進力を高めるため、人口減少社会に対応し持続的に成長できるよう、戦略的な視点で重点的に取り組む事業」というものです。

今後、庁舎建設やリニア駅前整備等多額の事業計画



この5つの戦略プロジェクト全体の事業費が74億5，200万円。そのうちの一つである「JR亀山駅周辺拠点力向上」には38億円もの事業が計上されています。このうち公共事業が35億円あり、これは全体の事業費の46．7%を占めています。

亀山駅周辺整備に20億円、和賀白川線（北への延伸）4億6千万円、野村布気線10億円などとなっています（その他、公共事業ではありませんが、バスなどの地域生活交通再編に3億4千万円）。※上の写真は空調機設置の予算が計上された西野公園体育館

今後市庁舎建設があり、リニア亀山駅誘致による駅前整備やアクセス道路の整備、認定子ども園の新設など多額の公共事業が総合計画案では計画されています。

今後６０年間に約２５％の総量削減が必要

一方で先日、財務部から総務委員会に対して、「亀山市公共施設等総合管理計画（案）」の説明がありました。この計画案は、市が管理している公共施設「ハコモノ」や道路、上下水道管などの「インフラ」を今後60年間を見通して維持管理、更新するための費用がどれぐらいになるのかなどを示しています。

説明によれば、最近5年間の「ハコモノ」や「インフラ」の年平均投資額が25億3千万円かかっています。それが今後60年間の費用額は、年平均30億4千万円に膨らみます。このため、約25%（年7～8億円）の総量削減が必要になるという試算です。

一方で大盤振る舞い、もう一方で大幅な削減

前期基本計画案の5つの戦略プロジェクトの公共事業の大盤振る舞いと、この公共施設の管理計画案による約25%の総量削減は、同じ市のものとは思えないほど真逆なものです。不要不急の事業や効果が明確でない事業などは計画を中止すべきです。

公共事業はすべてダメで、公共施設はどんどん削減をという立場ではありませんが、将来を見据えて市民生活に何が必要で何を削るのかを「選択と集中」でやるべきです。

あの要求はどうなったの　実施計画案に見る

総合計画案の中に、具体的な事業内容を示した平成29年度から3年間の実施計画案があります。市民の切実な要求や課題の事業をいくつか紹介します。

奨学金の返還額の一部を補助する制度を新設

奨学金を借りて進学、卒業した人達が多額の奨学金の返済に困っている問題が大きな社会問題になっています。政府もわずかばかりですが、手立てを検討しています。以前、この奨学金問題を一般質問で取り上げました。その時の市の答弁は、「地方総合戦略の中で、提案の手法も含め支援策を検討する」（2015年3月議会）という内容でした。

今回の実施計画案では、「学生奨学金返還支援事業」が新たにつくられ、内容は「**大学等を卒業後、市外から市内に転入する就業者を対象に、10年間にわたり、在学中に借り入れた奨学金の返還額の一部を補助**」するとし、平成30年度に90万円、31年度に180万円の予算を予定しています。

すべての普通教室に３年間でエアコンの設置



長年、要求してきた小・中学校、幼稚園の普通教室に空調機を設置する問題ですが、**平成29年度から3年間ですべて整備**されることになりました（左の写真は亀山西小学校）。

小学校は平成30年度に設計業務で920万円、31年度に工事で1億8千万円。中学校は29年度に設計業務で280万円、30年度に工事で5，300万円。幼稚園は平成30年度に設計業務で150万円、31年度に工事で2，780万円。総事業費2億7千万円です。財源は国から9千万円、地方債（借金）1億6千万円、残りが一般財源（市の財源）という計画です。

完全給食の実施が決まったのに、３年間検討とは

中学校給食については、給食検討委員会の「完全給食が望ましい。自校方式が理想。」という意見を受け、市教育委員会も「完全給食が望ましい。」という方針を決定しました。保護者や生徒達は早期の実施を求めていますが、今度の実施計画案では、**3年間「検討」**とあるだけです。このペースでは、今の小学生は中学生になっても完全給食が実施されない恐れがあります。本当にやる気があるのかと感じる問題です。

必要性の低い和賀白川線の延伸に約７億円

何度も取り上げているのにストップがかからないのが和賀白川線の延伸事業です。実施計画案では、平成29年度、30年度は用地買収で5億円、31年度から工事に着手し、**総事業費は6億8千万円**（ただし、市道亀田小川線の道路改良は必要です）。

いつまで不要不急の道路を造り続けるのでしょうか。